

令和８年度第１回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 令和８年８月１７日（月）１４：００～１５：３０

開催場所 奈良県立医科大学 四条キャンパス 大学本部棟３階 大会議室

出席者

（委員）垣内委員長、竹田委員、任委員、町田委員、松村委員

（法人）嶋理事長、木村副理事長、西橋理事、堀江理事、吉川理事、笠原理事

その他関係課職員

（事務局）小島医療政策局次長、瀬尾病院マネジメント課長、山本病院マネジメント課長補佐

その他病院マネジメント課職員

議題

（１）役員報酬等の支給基準の変更について

報告

（１）第４期中期目標・中期計画における令和７年度進捗状況について

公開・非公開の別

公開（傍聴者 ０人、報道関係者 ０人）

議事内容

議題（１）役員報酬等の支給基準の変更について

- 法人より「資料１」に基づき、役員に対する報酬等の支給基準の変更について説明。

[垣内委員長]

意見がないとのことなので、役員報酬等の支給基準の変更に対しては、委員会として、意見の申出はないこととする。

報告（１）第４期中期目標・中期計画における令和７年度進捗状況について

- 法人より「資料２」「参考資料１～４」に基づき、令和７年度進捗状況の報告。

[垣内委員長] 参考資料２のP.10

県費奨学生は総会に必ず出席しなければならないとはなっていないのか。県から奨学金が出ているので、検討を進めてほしい。

〔任委員〕 参考資料 2 の P. 1

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に伴い、各大学が特徴を踏まえながらカリキュラムの見直しを進めているなかで、医大では看護情報学を速やかに見直され、改修をされているのは大変素晴らしいと思う。カリキュラムをよりよくして、どのように成果を評価するかがモデル・コア・カリキュラムの大きな柱になると思うが、現状あるいは今後の展望をご教示いただきたい。

〔医大〕

新しいモデル・コア・カリキュラムへの対応については、今年度からカリキュラムの変更を届け出て、令和 11 年度に開始することになる。授業評価や到達度評価をシステムとして取り入れて、学習の到達度や学生の満足度を含めて、客観的に評価できるシステムを構築しているところ。

〔松村委員〕 参考資料 2 の P. 8

平均在院日数の目標設定の意図について教えてほしい。病床稼働率が下がるのは良くないが、平均在院日数が短くても稼働率が維持できているのであれば、むしろ望ましいことだと思う。

〔医大〕

目標については、経営状況が良好な時の平均在院日数を設定させていただいた。経営を考える上では、在院日数と病院稼働率の両方を見ておかないといけないと考えている。

〔任委員〕 参考資料 2 の P. 11

専門的なスキルを有する看護師を育成するために様々な取組をされており、特に、特定行為研修については、令和 6 年度を上回る 15 名が研修を修了しており、素晴らしいことと思う。この特定行為については、人材の養成とキャリアアップが大きな課題と認識している。院内での人材の活用の状況と今後についてご教示いただきたい。

〔医大〕

人材の活用については、特定看護師の一部が RRT（Rapid Response Team）として 24 時間体制で活躍している。前年度、現場で活用できるということにフォーカスをあてて、特定行為の実施状況を踏まえたカリキュラムの見直しを行い、人材を有効活用できる仕組みづくりをしているところ。また、地域に貢献できるという点に関しては、大学としての使命もあると思うので、訪問看護ステーションのナースも受け入れ、地域のナースも含めた人材育成を図っている。

〔任委員〕

活用した成果についても発信されると、医大としての機能が果たせるのではないかなと思う。

〔医大〕

RRT が今年で 2 年目を迎えるが、急変時に早期に介入するということで、院内の救命コールを使用することなく早期に対応出来ている、という成果はあがっている。

〔垣内委員長〕 参考資料 2 の P. 6

学術雑誌掲載論文の機関リポジトリ登録件数については、累計を目標としているが、実績と乖離があり、今後どう改善していけるのか。

〔医大〕

リポジトリのシステムが国の規程に合わない部分があったため、今年の夏に、システム改修を行っている。登録数が少ないのが問題と認識しているため、改修が終われば周知を行いたいと考えている。

〔垣内委員長〕

リポジトリは、見た回数やダウンロードした回数を研究者にフィードバックされるのか。

〔医大〕

本学にはそのようなシステムはない。

〔垣内委員長〕

新規共同研究・受託研究数や日本医療研究開発機構（AMED）事業代表採択件数の判定も累計で行うこととなっているが、今後どのように上げていこうと考えているか。

〔医大〕

過去 5 年間の結果を踏まえて目標設定している。AMED に関しては、AMED の関係者をお呼びして個別のミーティング等を行っている。また、研究費が高くチームとして申請することが求められることも多い。そのため、例えば奈良先端科学技術大学院大学と研究者の交流などの様々な連携等を行っており、そういったことをより連携を強化する形で進めていきたいと考えている。また、検討していることの 1 つとして講座研究費の配分について、これまではより科研費（文部科学省科学研究費助成事業）の採択件数が多かった教室に、インセンティブを持たせていたが、AMED に対しても同様の取り扱いとし、より積極的に応募することを意識として持っていただくということも計画している。

新規共同研究・受託研究数については、産官学連携の体制の見直しも必要ではないかと考え、本年度、新体制になってからイノベーション推進本部という新しい本部を構築した段階である。

〔町田委員〕 参考資料 2 の P. 12

1 か月以上のメンタル休業者の人数は、どの時点の人数を指しているのか。もう一点、メンタル休業者のうち何名が復職できているのか。

〔医大〕

1 か月の休業者数は、令和 7 年度 1 年間の人数である。復職については、正確な数字はないが、3 分の 1 程度は復職後ある程度の期間、働かれていると思う。

[垣内委員長] 参考資料2のP.12

メンタル休業者と超過勤務時間に相関関係はあるのか。

[医大]

業務の負荷が多いために不調になる職員もいるが、一概に言えないと認識している。

[竹田委員] 参考資料2のP.8

医療技術の進化に伴い、平均在院日数は短くなっており、病床稼働率も悪くなってきていると思う。それを改善するために、新規外来患者を増やさなければならないと思うが、どのような工夫をされているか。

[医大]

病院経営を改善するために、今年度4月から経営対策本部を設置している。病床稼働率をあげることが一番の目標であると認識しているため、まず、初診の枠を広げて地域連携により紹介患者を増やす取組をしている。その中で入院患者を確保していくというような経営努力を行っている。また、より多く救急を受けることで、入院患者につなげていきたいと考えているところ。

[竹田委員]

近隣の病院等に挨拶に行き、地域連携を進めるのも良いと思う。

[医大]

先日、学長や理事が地域の病院に出向き、附属病院の方針等を説明した。新規外来患者を増やす取組の一つとして、画像検査の件数を増やし、検査待ちを少なくしたり、返書により地域の病院との信頼関係をつくるといったことも実施している。

[垣内委員長] 参考資料2のP.8

病床稼働率が86.1%というのは高いとみていいのか。他の病院と比べてどうか。

[医大]

まだ低いと考えており、今は93%を目標としている。他病院と比較すると高い方だと思う。